

教科・科目	国語・現代文
タイトル	夏目漱石『夢十夜』「第一夜」における愛の成就
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の関係や心情を表現に即して読み、主題や設定の意図について主体的に考える。</li> <li>・象徴的に描かれる事物や色彩表現に着眼し、作品を解釈する。</li> <li>・学習者相互の対話を通して、作品の理解や自己の考えを深める。</li> </ul>
期間	9月(全4コマ)
対象	2年生 全員
内容	<p>〈先行実践〉  キリスト教で純潔を象徴する白百合を「女」の化身ととらえ、百年という時を超えて再会した「自分」と「女」の愛が、永遠で精神性を有するものであると認識させることを目標とする実践が多い。</p> <p>〈本実践〉  「自分」と「女」の愛が成就したという結論に導くのではなく、生徒それぞれが本文の記述に基づいた根拠とともに、二人の愛が成就したか否かを判断できるようになることを目標にした。</p> <p>二人の愛の成就について、班で話し合い、その後、肯定派と否定派に分かれて討論を行った。  以下は、その時に生徒から出た意見である。</p> <p><u>成就したと考える根拠</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白百合と「女」の真っ白な頬、百合に落ちた露と「女」の涙を重ね合わせることで、百合は「女」の化身ととらえることができる。</li> <li>・女を埋める場面のみ夜であり、「月の光」「星の破片」「真珠貝」など、夜を連想させる物が効果的に使われている。この夜空と「女」の真っ黒な瞳を重ね合わせることで、そこに瞬く暁の星が「女」の化身であるにとらえることができる。</li> <li>・「自分」は百合や暁の星を見たことで百年経っていたと気づいたため、「自分」は百合や暁の星を「女」の化身ととらえていると考えられる。</li> </ul> <p><u>成就していないと考える根拠</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「女」の約束を「自分」が疑ったことをきっかけとして、それに答えるように、百合の青い茎が伸びてきた。したがって、百合が二人の愛の成就を象徴するとは考えにくい。</li> <li>・イエス・キリストの墓に咲き出た白百合が「復活の象徴」とされること、「骨にこたえる(＝全身に強く感じる)」ほどの匂いがする百合に接吻することなどから、百合は身体的表現と密接な関わりがあると読み取れる。また、「女」の黒い瞳を連想させる空から「女」の涙を思わせる露が落ちたことから、暁の星の瞬く天に「女」の精神があると考え</li> </ul>

	<p>られる。「自分」が「女」との約束を疑ったため、このような分裂した形での再会しか、なし得なかったのだと考える。</p>
一人ひとりの学びを深める要素	<p>自分の意見を班で共有し、その後クラス全体で討論するという段階を踏むことによって、自分の考えを深めていくことができた。最初は、自分の意見を持てなかった生徒も、他者のものの見方や感性に触れることで、次第に自分の意見を持てるようになった。</p> <p>「第一夜」の授業後に、『夢十夜』全体を通して用いられている象徴的なものや色彩表現について確認した上で、それらのキーワードを用いた創作課題を課した。</p>
教材等	<p>〈教材〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏目漱石『夏目漱石全集10巻』筑摩書房 1996</li> </ul> <p>〈参考文献〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五味淵高志・鉤治雄「夏目漱石『夢十夜』総合的解釈の試み—第一夜を中心に—」創価大学教育学論集第71号 2019</li> <li>・植西浩一「『夢十夜』の教材研究—第一夜の素材的研究を中心に—」広島女学院大学国際教養学部紀要第5号 2018</li> <li>・関谷博「国語科教育法に向けて:教材研究2[高校編]漱石『夢十夜』:「第一夜」と「第六夜」の学習」藤女子大学国文学雑誌第97号 2017</li> <li>・仁野平智明「文学的文章を教材とした読みの指導における〈見ること〉の意義:『夢十夜(第一夜)』を例に」日本語と日本文学第58号 2015</li> <li>・戸田由美「漱石『夢十夜』考1:「第一夜」の示唆するもの」西南女学院大学紀要第15巻 2011</li> <li>・生方智子「流出する鏡—『夢十夜』「第一夜」におけるメタファーの機能—」明治大学日本文学第23号 1995</li> </ul>
成果	<p>「百年待っててください」と言った「女」が百合や暁の星に生まれ変わったと考えた場合、「自分」と「女」は再会し、その愛が成就したととらえることができるが、「自分」が逢いたかったであろう、昔の姿のままの「女」には再会できなかったことで、二人の愛は成就していないと考える余地があることに気づくことができた。</p> <p>授業を通して、文学作品の多様な読みの観点に気づき、そこから自ら選択して読む力を身につけることに繋がったと考えている。</p>
課題	<p>Googleクラスルームで創作課題を配布し、GoogleドキュメントかWordでの提出を求めたが、指定の形式で提出できない生徒が多かった。</p> <p>授業で、ICT機器やアプリケーションを用いることが増えてきたが、教員も生徒もそれらの利用方法を十分に知らないまま使っていることが多いので、定期的に学んでいく必要があると実感した。</p>
今後の展望	<p>授業で扱った筆者の他の作品などを授業中に紹介すると多くの生徒が興味を持ってくれるが、インターネットで見られる範囲のものにしか手を伸ばしてくれないので、普段の読書に導けるようにしたいと考えている。</p>